

執筆者紹介 (五十音順 *は編者)

五十君 麻里子 (いぎみ・まりこ) 第2章 [ローマ法]

福岡県出身。1990年九州大学法学部卒業。1995年九州大学大学院法学研究科博士後期課程修了, この間独・伊・英に留学。愛媛大学法文学部講師, 助教授, 九州大学法学部助教授を経て2007年より同教授。博士(法学)。

主な著作に「ローマ古典期における反対合意について(1)~(2・完)」法政研究 64巻2号・4号(1997・1998年), 「蜜蜂は野性か?」法政研究 70巻4号(2004年)などがある。

『ローマ法大全』を編纂させたユスティニアヌス帝は, 法学を学び始める若者に「若きユスティニアヌスたちよ」とよびかけました。地方の農家に生まれ皇帝に上りつめたユスティニアヌスの人生に, 法学の勉強が大きな影響を与えたからこそ, 彼らに自らを重ねあわせたのでしょう。他方, 古代ギリシアでは, 法は「奴隷の学問」とよばれたそうです。皇帝になるか, 奴隷になるか, それはあなた次第です。

遠藤 歩 (えんどう・あゆむ) 第7章 [民法]

大阪府出身。1995年大阪市立大学法学部卒業。九州大学大学院法学研究科, 東京都立大学法学部助教授を経て, 2007年より九州大学法学部准教授。

主な著作に, 「弁済充当における保証人の地位」法政研究 67巻4号(2001年), 「抵当権の物上代位の目的となる債権に対する転付命令の効力」東京都立大学法学会雑誌 44巻1号(2003年), 「平成16年保証法改正に関する一考察」新井 誠・山本敬三編『ドイツ法の継受と現代日本法』(日本評論社, 2009年)などがある。

高校は教育の場でしたが, 大学は学問の場です。大学では, 何かを教えてもらうのではなく, 自ら学びとってゆくことが必要となります。そのために, まずは, 自らの頭で良く考え, 色々なことを疑いながら勉強することから始めてみてください。きっと学問の楽しさが見つかるはずです。

笠木 映里 (かさぎ・えり) 第12章 [社会保障法]

東京都出身。2003年東京大学法学部卒業。同助手を経て, 2006年より九州大学法学部助教授(准教授)。

主な著作に, 『公的医療保険の給付範囲』(有斐閣, 2008年), 「地方分権と社会保障政策の今後」ジュリスト 1361号(2008年), 「医療制度——近年の動向・現状・課題(特集: フランス社会保障制度の現状と課題)」海外社会保障研究 161号(2007年)などがある。

大学1年生の頃の私は, 法学に強い関心を持たず, 将来自分がこんな仕事をするなんて夢にも思っていませんでした。でも, 法を学ぶことは, 社会と自分を具体的な形でつなぐひとつの方法だと気づいた時から, 勉強が楽しくなりました。もし, 今, 楽しさを感じられなくても, 少しだけ辛抱して, 勉強を続けてみてください。きっと, 今まで知らなかった新しい世界と, 新しい自分に出会えるはずです。

笠原武朗 (かさはら・たけあき) 第8章 [商法]

福岡県出身。1997年東京大学法学部卒業。東京大学大学院法学政治学研究科を経て、2002年より九州大学法学部助教授(准教授)。博士(法学)。

主な著作に、「全部取得条項付種類株式制度の利用の限界」『企業法の理論(上)(江頭憲治郎先生還暦記念)』(商事法務, 2007年), 「少数株主の締出し」森淳二郎・上村達男編『会社法における主要論点の評価』(中央経済社, 2006年), 「監視・監督義務違反に基づく取締役の会社に対する責任について(1)~(7・完)」法政研究69巻4号~72巻1号(2003~5年)などがある。

どんな学問を修めても、その後専門家になるのでなければ、時間の経過とともにたいがいのことは忘れます。それでも残るのが「ものの考え方」です。法学の「ものの考え方」は、あなたの社会の見方をより豊かなものにしてくれます。一定の期間、脳ミソに汗かきながら勉強すれば、の話ですが、頑張ってください。

小島 立 (こじま・りゅう) 第5章, 第13章 [知的財産法]

福岡県出身。2000年東京大学法学部卒業。2003年ハーバード・ロースクール法学修士課程(LL.M.)修了。東京大学法学部助手を経て、2005年より九州大学法学部助教授(准教授)。法学修士(LL.M.)。

主な著作に、「デジタル環境における情報取引についての基本的視座」財団法人知的財産研究所編『デジタル・コンテンツ法のパラダイム』(雄松堂出版, 2008年), 「条約における権利制限」著作権研究35号(2008年), Prior Informed Consent: An Intellectual Property Law Perspective, in T. Kono (ed.), *Intangible Cultural Heritage and Intellectual Property*, Intersentia, 2009などがある。

法学とは「六法全書を丸暗記する」学問では決してありません。法学は「社会」を相手にする、大変にダイナミックな学問領域です。自ら得手・不得手を作らず、常に幅広い問題関心を持つと同時に、新聞やメディアなどで報道される社会現象を鵜呑みにすることなく、「批判的な視点」で分析できる「冷徹さ」を身にまもってください。

豊崎七絵 (とよさき・ななえ) 第4章3, 第10章 [刑事訴訟法]

新潟県出身。1994年東北大学法学部卒業。東北大学大学院法学研究科修士課程修了後、東北大学法学部助手、龍谷大学法学部助教授を経て、2006年より九州大学法学部助教授(准教授)。博士(法学)。

主な著作に、『刑事訴訟における事実観』(日本評論社, 2006年), 「第一審無罪判決の場合における、控訴審での再勾留の批判的検討」龍谷法学37巻3号(2004年), 「未決拘禁の理論的根拠」法学69巻5号(2006年)などがある。

大学というところは、納得ゆくまで思想を深め、自由闊達に表現をなし、そして利害関係なく人と手を結ぶことができる、貴重でかけがえのない場です。将来、どのような道に進もうと、その享受してきた自由の大切さを忘れずに、ぜひ活かしてほしいと心より願っています。

八田 卓也 (はった・たくや) 第4章1・2, 第9章〔民事訴訟法〕

東京都出身。1995年東京大学法学部卒業。同助手、九州大学法学部助教授を経て、2007年より神戸大学法学部准教授。

主な著作に、「倒産実体法の規律に関する理論的考察」ジュリスト1349号(2008年)、「ドイツにおける不利益陳述の取扱いについて」法政研究70巻4号(2004年)、「境界確定訴訟の意義について」『民事訴訟法理論の新たな構築(下)(新堂幸司先生古稀祝賀)』(有斐閣、2001年)などがある。

「学びて思わざればすなわち罔(くら)し。思いて学ばざればすなわち殆(あやう)し。」法学を勉強していくうえでこの言葉を意識することの大切さを、学生時代に先生から教わり、今でも痛感しています。自分で考えること、そして教員や書物等から知識を吸収することのバランスを大切に、これから楽しく法を学んでいってください。

原田 大樹 (はらだ・ひろき) 第3章, 第11章 〔行政法〕

福岡県出身。2000年九州大学法学部卒業。2005年九州大学大学院法学府博士後期課程修了。九州大学法学部講師を経て2006年より同助教授(准教授)。博士(法学)。

主な著作に、『自主規制の公法学的研究』(有斐閣、2007年)、「福祉契約の行政法学的分析」法政研究69巻4号(2003年)、「民営化と再規制」法律時報80巻10号(2008年)などがある。

法学は社会のしくみを理解し、それを動かそうとするには不可欠の知識であり、学ぶ価値は大きいです。他方でその知識が正しく用いられなければ、社会やそこで暮らす人々に対して大きな被害をもたらす恐れもあります。法学を学ぶ際には、その内容を正しく理解する努力と同時に、やさしさや思いやりの心、相手の痛みを受け止める感受性も磨いて欲しいと思います。

南野 森* (みなみの・しげる) はしがき, 第1章, 第6章〔憲法〕

京都府出身。1994年東京大学法学部卒業。東京大学大学院法学政治学研究科、パリ第十大学大学院を経て、2002年より九州大学法学部助教授(准教授)。

主な著作に、『憲法学の現代的論点』(共著、有斐閣、2006年)、「憲法解釈の変更可能性について」法学教室330号(2008年)、「『憲法』の概念」長谷部恭男編『岩波講座憲法6 憲法と時間』(岩波書店、2007年)などがある。

法学を勉強することに何の意味があるのでしょうか。法律を使う職業を目指すのなら、たしかに早めに法学の勉強を始めるのが有利でしょう。でも、この本の読者には、将来の進路なんて未定という人もたくさんいるはずですよ。そんな人でも、真剣に法学を勉強した方がいいと僕は思います。将来仕事に活かせるかどうかに関係なく、たとえば古典文学であれインド哲学であれ、そして法学であれ、とにかく1つの学問体系を懸命に勉強することで、頭が良くなるのですから。

〈編者紹介〉

南野 森 (みなみの・しげる)

九州大学法学部准教授



ブリッジブック法学入門

〈ブリッジブックシリーズ〉

2009 (平成 21) 年 5 月 15 日 第 1 版第 1 刷発行 2324-0101

編 者 南 野 森

発行者 今 井 貴
渡 辺 左 近

発行所 信山社出版株式会社

〒 113-0033 東京都文京区本郷 6-2-9-102

電 話 03 (3818) 1019

F A X 03 (3818) 0344

Printed in Japan.

印刷・製本／暁印刷・渋谷文泉閣

©南野 森, 2009.

ISBN978-4-7972-2324-8 C3332

NDC 321. 法学